

## 第 6 学 年 家 庭 科 学 習 指 導 案

6 年 2 組 指 導 者 重 枝 孝 明

### 題 材 くふうしよう 1 食分の食事

#### 1 本題材でめざす子どもの姿について

対象と向き合う子どもの姿【対】	自己と向き合う子どもの姿【自】	他者と向き合う子どもの姿【他】
○自分の家庭生活を振り返りながら、栄養バランスを中心とした 1 食分の献立を作成したり、効率的に調理したりしている。	○1 食分の献立作成の方法や調理の方法について、自分の考えの深まりを自覚している。	○よりよい献立作成の方法や調理の方法を追究しようと、仲間に助言したり仲間の考えを取り入れたりしている。

#### 2 めざす子どもの姿を実現するために

本学級の子どもたちは、食事の役割を考えながら、ご飯やみそ汁、「ゆでる」「いためる」を用いたおかずなどをつくる学習に取り組んできた。このような子どもたちが、自分の家庭生活を振り返りながら、栄養バランスを中心とした 1 食分の献立を作成し、調理する学習に取り組む。このことは、子どもたちが家族の一員として、自分にできることが増えたことを自覚し、自ら家庭生活に関わろうとする態度を養うことにつながるであろう。

本題材は、1 食分の献立を作成し、調理する学習である。子どもたちは、生活経験や学習経験をもとに、よりよい献立作成の方法や調理の方法について考えていくであろう。その際、自分の家庭生活を振り返ることを大切にしたい。そうすることで、家庭の状況をもとに、栄養バランスを中心とした献立作成の方法や効率的な調理の方法を理解し、家庭で実践する力をつけることができると考えるからである。

そこで、以下のような支援を具体化し、本題材でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 「材料」や「朝昼晚いつの献立か」、「時間」など、より実生活に近い状況を設定する。そうすることで、自分の家庭生活を振り返りながら、栄養バランスを中心とした献立を作成したり、手際よく調理を進めたりすることができるようにする。【対】
- 1 食分の献立作成の方法について考えを交流する際には、献立で工夫したことを説明するように促す。そうすることで、自分と仲間の考えの共通点や相違点を捉えたり、仲間の考えのよさに気付いたりすることができるようにする。【他】
- 授業の終末には、自分の最初の考えがどのように変化したかを問い、学習を振り返る場を設ける。そうすることで、自分の考えの深まりを自覚することができるようにする。【自】

#### 3 本題材の目標

- よりよい 1 食分の献立作成の方法や調理の方法を考えるとおして、栄養バランスを中心とした献立作成や効率的な調理の方法を理解し、調理することができるようにする。
- 日常の食事やその栄養バランスに関心をもち、家族の一員として、自ら家庭生活に関わろうとする態度を養うことができるようにする。

#### 4 本題材における評価規準

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
○栄養バランスを中心とした 1 食分の献立作成の方法や調理の方法を理解し、身近な食品を用いて調理することができる。	○生活経験や学習経験をもとに、1 食分の献立作成の方法や調理の方法を工夫している。	○1 食分の献立作成や調理に関心をもち、よりよい献立作成の方法や調理の方法を追究しようとしている。

#### 5 指導計画（全 1 1 時間）

- 第 1 次 学習の見通しをもつ（1 時間）
- 第 2 次 1 食分の献立作成の方法を考える（4 時間）【本時 3 / 4】
- 第 3 次 1 食分の食事の計画を立て調理する（4 時間）
- 第 4 次 家族との食事の計画を立て実践する（2 時間）

